

鯨城ニュース

第 26 号

平成26年6月発行

特集 新会長による運営方針・行事活動状況について

鯨城会ホームページアドレス <http://www.kojyokai.net/>

発行／名古屋市高年大学鯨城会

名古屋市高年大学鯨城学園

編集／広報委員会

平成 26 年度 鯨城会活動計画

鯨城会会長 河合 世輝代



平成 26 年 4 月、鯨城会会長に就任させて頂きました河合でございます。

鯨城会発足以来、初めての女性会長との事で注目や期待、緊張の日々ですが、鯨城会が益々発展するよう女性ならではの優しさや思いやりの心で、全力を尽くす所存でございます。会員の皆様のご支援ご協力を宜しくお願いいたします。

平成 26 年度も多くの会員の方をお迎えし、心強く思うのと同時に感謝し歓迎させていただきます。

さて、皆様もご存じの通り鯨城学園も今年より大きく変化し、授業料・クラス数・学生数の見直し等が行われ、学生数については 568 名から 760 名の増員となり、鯨城会からは講師や学園サポータの派遣をさせていただく事になりました。また、25 年度からの議案であります組織改革委員会（NPO 法人化）の件については 26 年度の代議員に一任する事になりました。

こうした事を踏まえて、26 年度の活動計画では各区会との信頼関係、連帯感を密に地域活動の充実に図り、学園や学生会と連帯を図り皆様の理解を深める努力をして行きたいと思っております。26 年度は歴史的にも変革の年になる事と想定されます。会員の皆様の一層のご理解ご協力をお願い申し上げます。

目次

表紙 名古屋市総合体育館（日本ガイシスポーツプラザ）	
平成 26 年度 鯨城会活動計画	1
副学長挨拶	2
鯨城会 NPO 法人化へのこれまでの経過	3
26 年度運営のモットー・運営方針・事業計画	5
区会会長兼区会代議員・鯨城会役員・監事・幹事各名簿	6
新役員紹介と活動目標	7
平成 25 年度名古屋市高年大学鯨城会決算書	8
平成 26 年度名古屋市高年大学鯨城会収支予算書	9
特集 新会長による運営方針・行事活動状況について	10
鯨城会 1 年を振り返って	18
鯨城学園だより	19
学生協議会ニュース	20
第 11 回グラウンド・ゴルフ交歓会成績表	21
こころの絆創膏 東日本大震災共同募金	21
第 4 回 OB 文化祭を終えて	22
トピックス ボランティア活動 ミャンマー マヤンイン小学校訪問	23
平成 26 年度各区会展示会予定について	25
表紙説明・訃報・編集後記	26
裏表紙 第 30 回公開講演会のお知らせ	

高年大学の新しいスタートに向けて

名古屋市高年大学鯉城学園 副学長 喜多島 慎



鯉城会の会員の皆さまには、日頃より学園にご理解と温かいご支援をいただき、厚く感謝申し上げます。

さて、本学園は、皆さまのご協力をいただき、厳しい行政評価の結果を経て、本年度より4年間社会福祉協議会が指定管理者として、新しいスタートを切ることになりました。

学園体制も大きく変わり、園芸、陶芸、美術、環境の実習を伴う専攻（旧学科）以外の生活、文化、地域、健康、国際、福祉専攻が各2クラス募集となり、1学年16クラス760名の募集となりました。授業料や実習費も大幅な変更があり、本年度の募集は厳しいものとなり、追加募集も行いましたが、3つの専攻で欠員が出、入学者738名で入学式を挙行しました。また、学園スタッフも2名減で、1人4クラスの担当となりました。（完成年度は次年度で本年度の2年生は従来どおり。）さらに、学生数の増加に伴い、学生会のご協力の下、クラブ数も8クラブ新設していただき、クラブ登録も無事終えることができました。

※募集定員

コース	社会		生活			創造			地域		合計
	専攻	環境	国際	健康	生活	福祉	園芸	陶芸	美術	地域	
定員	48	96	96	96	96	48	48	48	96	96	760

※クラブ活動

書道、重要文化研究、郷土史研究、民謡、社会研究、広報研究、グリーン、フォークソング、初歩からの将棋愛好、万葉、国際文化研究、コーラス、英会話、囲碁、ハイキング、歩いて知ろう会、水墨画、古文書、パソコン、やさしい短歌、健康、福祉友愛、天文気象、写真、水彩画、陶芸、歴史愛好、太極拳、ペーパークラフト、なごやか絵手紙、パソコンペイント、フラダンス、マジック愛好会、旅行、オカリナ、健康ウォーク（下線が新設クラブ）

この学生数の増加に伴い、授業時間帯も変更となりました。水曜日の午前は、5階鯉城ホールでは1年生の共通講座（教養講座と地域活動学習講座）、同時に8階と9階の教室では2年生の専門講座、午後は1年生の専門講座、金曜日は5階鯉城ホールで2年生の共通講座、同時に教室では1年生の専門講座、午後は2年生の専門講座と、教室、ホールともフル稼働の状態となります。また、火曜日と木曜日は午前・午後ともクラブ活動の時間となり、このため、卒業生の皆さまの教室貸し出しは月曜日のみとなり、ご迷惑をおかけすることになります。このような状況ですので、ご理解をお願いいたします。

鯉城会の皆さまには、図書ボランティアを平成22年度からお願いし4年目を迎えますが、さらに本年度は授業運営にも学園サポーターとしてお支えいただくことになりました。また、学識・経験豊かな皆さまにも講座講師としておいでいただけます。一昨年より始めました「地域ミーティング」にも市鯉城会・区鯉城会や市社会福祉協議会・区社会福祉協議会の積極的なご参加・ご協力をいただいております。深くお礼申し上げます。

この新しい体制でのスタートはまだまだ不十分な部分も多くこれから改善していく必要が多々あると思います。鯉城会の皆さまの貴重なご意見をいただければ幸いです。

職員も異動が多く、不慣れなところもありますが、鯉城会の皆さまのご理解とご協力をいただき、職員が一丸となり、在学生が豊かな高年大学の学園生活を過ごすことができますようより一層のご理解とご協力をお願いいたします。

鯨城会 NPO 法人化へのこれまでの経過

組織改革委員長 豊田悦造

1 「鯨城会の NPO 法人化への移行」提起

平成 23 年 10 月に行われた行政評価（外部評価）で、鯨城学園は『廃止』の判定結果となった。その後、鯨城会会員、学生会などから存続を求める請願書名（23,189 筆）を市議会議長に提出した。24 年 10 月『抜本的見直し』が前提条件で鯨城学園継続が適当と市審議会が答申した。

これらを受け、平成 24 年度の鯨城会代議員（各区会長）及び役員で構成する「今後の鯨城会をよくする委員会」を平成 24 年 9 月に発足させた。学園運営がどのように変化するのか注意深く見極めながら、その在り方を含めて問題点を洗い直した。そして改革が必要であればどのようにするかを検討した。

社会福祉協議会が作成した「鯨城学園あり方提言書」には、提案 3 卒業生の活躍を支援する体制を強化します。（平成 24 年 8 月）

①市・区鯨城会と協働し、卒業生の地域活動参加支援体制を整備します。

②卒業生による「クラスサポーター」を導入します。

とある。それに対応するに現鯨城会で可能であるが総合的に判断すれば NPO 法人化の方が有利である。なぜなら、講師・サポーターの契約者は学園（社会福祉協議会）と個人であること。また、カリキュラム編成会議には鯨城会メンバーが途中で代わることなど、法人格をもって社会福祉協議会、学園と対等な立場で推薦した講師・サポーターに対し責任が明確にされていないことなど、問題点が多々あるからである。

その後 25 年度の各区会長が 4 月から加わり 4 分科会が組織された。その中の「法人化検討委員会」を中心に平成 25 年 10 月まで 5 回の会議を開催、討議の結果を鯨城会会長に定款（案）など必要事項を答申した。NPO 法人化準備委員会設立には、各区鯨城会の代議員会（各区会長）の採決による決定が必要なため代議員会を開いた。

2 代議員会での票決結果について（投票権は区会長 16 名 鯨城会役員 9 名 計 25 名）

(1) 平成 25 年 10 月 3 日（木）臨時代議員会（当日採決することは事前通知済）

①賛成 11 票 ②反対 7 票 ③保留 6 票 ④欠席 1 票 計 25 票いずれも過半数に達していないため後日、再投票する事となった。

(2) 平成 25 年 11 月 14 日（木）再投票を実施（記名投票）

①賛成 14 票 ②反対 8 票 ③白票 1 票 ④欠席 2 票で堀場鯨城会会長から「賛成が過半数に達しており、可決されたので「NPO 法人化準備委員会（仮称）」を設立する」旨発言があった。

3 鯨城会組織改革委員会（「NPO 法人化準備委員会（仮称）」から名称変更）の発足

平成 25 年 12 月 9 日（月）第 1 回委員会開催 委員長、事務局、各区代議員で構成することを決定

4 臨時代議員会

平成 26 年 2 月 13 日（木）開催 各委員会から活動報告など終了後、

その他 (1) 神戸シルバーカレッジ社会還元センター「グループ“わ”」について説明

(2) NPO 法人化について 16 区代議員との懇談

5 鯨城会組織改革委員会（第 3 回）平成 26 年 2 月 17 日（月）10 時から 12 時

8 区会代議員出席、1 区会代議員 病欠、7 区会代議員無断欠席、

出席代議員の討議の結果「審議未了にて保留」次期代議員会に一任する。ただし、25 年度代議員であった組織改革委員会メンバーは、規約に定める。10 月を目途に 26 年度代議員と協力して進める。

作成日 2014/03/10 以上

鯨城会をNPO法人化に対する疑問や質問に対してQ&Aとして疑問に答えます。

Q 今なぜ法人化なのですか？

A 法人化するのは、現状打破のためです。一昨年の事業仕訳で鯨城学園を廃止するという事で、存続が危ぶまれた事は皆さんご承知の事です。学園は来年度から大きく改革し、授業や内容が大きく変わり新しく出発する事になりました。鯨城会も新しく生まれ変わって進む事が望ましいと考えたからです。今まで以上に社会貢献をめざし、市民に鯨城会を認知してもらう事によって、鯨城学園を廃止するという事が二度と話題にならないよう、そのための革新事業です。それは、鯨城学園が改革し前進する今こそが好機なのです。

Q 地区の（16区）の鯨城会はどうなるのですか？

A 今まで通り何も変わりません。地区の主体性や個性的な事は、一切変わりません。今までもこれから同じです。

Q 年会費や、その他の負担金が増えないのですか？上がりませんか？

A 今のところ変わりませんし、これからも会員には負担が増えることは有りません。現状と同じで、経費の節約に努めることは今まで通りです。会員の負担が増えることになれば NPO 法人化の意味がないと考えています。

Q NPO 法人になると、本部や地区会にも事務所や専従員を置かなければならず、経費負担が増えることになりませんか？

A これは本部の組織を NPO 法人にすることですから、地区会には一切負担はかかりません。今まで通りの運営で差し支えありません。また本部においても、設立当初は必ずしも、事務所や専従員を置かなくても運営は出来ます。

Q NPO 法人になると、地区に対して行事や企画について、人員を多く出したり、金銭的負担が多くなることは、ないのですか？

A この事については、設立後の役員会や、理事会において協議して決める事であり、行事を多くしたことにより、今まで以上に負担が増大する事にはならないでしょう。無償のボランティアで働いて金銭的責任ばかり取るのでは、理にかないませんね。そうならないような運営が望まれます。

Q 区会の自主性が無くなり、独自性が失われることに成らないのですか？

A NPO 法人化したとき、区会の自主性や独自性を最大限生かす事は、最も重要なことですから、現状の利点を尊重し、変えることは致しません。区会は今と同じ運営をして頂きます。

Q 先の 11 月の代議員会で議決されたことは、NPO 法人にすることが決定したのですか？

A いいえ違います。NPO 法人は、設立総会を開催し、全会員に信を問うことが、もっとも重要な事です。先の議決は、NPO 法人を設立する為の準備会を立ち上げるための議決です。

よって、設立総会において、全会員に対して、提案する書類や準備の段階です。準備会を立ち上げ、検討する事にしようとして議決したまでの事です。

したがって、設立総会で過半数の賛成が無ければ、成立しません。また設立総会で賛成多数でも、名古屋市長に設立申請し、承認され、なおかつ法務局に法人登記がなされたとき、はじめて NPO 法人となる事が出来るのです。まだまだ多くの関門があるのです。一部地区会で誤解がある事に対して、懸念を抱いています。

鯨城会会員の皆さんから NPO 法人についてご質問をお受けいたします。下記まで連絡ください。

〒460-0008 名古屋市中区栄 1-23-13 伏見ライフプラザ内
名古屋市高年大学 鯨城会

[26 年度運営のモットー]

☆区会を中心に、魅力ある鯨城会に☆

[26 年度運営方針]

1. 学園設立の趣旨を再確認し、卒業後は地域への積極的な活動を展開。
2. 会員から信頼される鯨城会、市民より評価される社会貢献活動の実施。
3. 各事業計画は会員のニーズ・社会変化を取り入れ、より充実した内容で実施。
4. 各区会と連携を強化し、諸活動への積極参加を目指す。
5. 学園、社会福祉協議会と定期的な会合を持ち、相互の意思疎通を図り、連帯を密にした積極的な協力体制。
6. 地域ミーティングや区会活動説明会へ積極的に参加し、入会率のアップを目指す。

[26 年度事業計画]

1. 鯨城ニュース、年 2 回の発行
2. 鯨城会ホームページ内容の充実と、情報伝達の迅速化
3. 公開講演会、年 2 回の開催
4. 鯨城 OB 文化祭、年 1 回の開催
5. 鯨城会・区会・学園・学生会が一体となった社会奉仕活動の実施
6. クリーンキャンペーン {鶴舞公園・堀川} 大作戦の実施
7. 図書館ボランティア運営の管理
8. グランドゴルフ交歓会、年 2 回の開催
9. 区会社会奉仕活動連絡協議会の開催
10. その他の事項の取り組み
 - ・在校生の各区会行事等への参加促進を学園と連絡調整
 - ・地域ミーティング、年 3 回の実施 {1 年生 2 回、2 年生 1 回}

26 年度区会会長兼区会代議員名簿

区 会 名	期・学科	氏 名
千種	25・文化A	森川 利貞
東	26・福祉	藤井 幸男
北	24・生活A	水谷 元雄
西	25・美術	小岩 孝志
中村	25・園芸	杉浦 弘
中	26・環境	山田 晴久
昭和	26・文化A	大野 俊介
瑞穂	26・生活A	久保 洋之

区 会 名	期・学科	氏 名
熱田	25・健康	木村 柳輔
中川	25・環境	山守 実
港	26・文化A	高橋喜久男
南	25・生活A	市川 公一
守山	25・園芸	江端 寛
緑	25・環境	近藤 仙治
名東	25・生活A	栗木 一
天白	26・国際	斉藤 昌和

26 年度鯉城会役員・監事名簿

役 職	期・学科	氏 名	区会
会 長	25・文化A	河合世輝代	中村
副会長	26・陶芸	石川 眞	昭和
副会長	26・生活B	富田 友子	中村
総務委員長	26・文化B	岩尾 秀樹	西
会計委員長	26・健康	安達ひろ子	南

役 職	期・学科	氏 名	区会
広報委員長	25・美術	猪飼 甫	中川
行事委員長	25・美術	楠元 和博	緑
社会奉仕活動委員長	24・環境	原 清隆	北
区会活動委員長	24・文化A	加藤 純子	東
監 事	24・環境	堀場 慶夫	中村
監 事	25・健康	渡辺 京子	天白

26 年度鯉城会幹事名簿

所属部署	期・学科	氏 名	区会
総務委員	26・生活A	原田 照子	千種
〃	26・国際	岡田 治子	東
〃	26・国際	中村 正幸	守山
会計委員	27・国際	荒川 春雄	中
広報委員	26・地域	中村さよ子	中
〃	26・園芸	中西三千人	中川
〃	26・文化B	稲生 雅子	熱田
〃	27・地域	橘田 正紀	中村
〃	27・環境	尾畑 孝	天白
行事委員	26・陶芸	夏目 常生	瑞穂
〃	26・陶芸	奥田 忍	名東
〃	26・美術	松浦 嘉一	名東

所属部署	期・学科	氏 名	区会
行事委員	26・生活A	安達 幸正	緑
〃	27・地域	浅野 孝治	千種
社会奉仕活動委員	25・福祉	塩満 和江	北
〃	25・健康	佐野 朋子	港
〃	26・環境	飯野 弘	港
〃	27・園芸	坂倉 健男	昭和
〃	27・国際	加藤 守男	守山
区会活動委員	25・生活A	犬飼 秋芳	熱田
〃	26・陶芸	小南 勝	天白
〃	27・文化A	久保 保弘	西
〃	27・園芸	酒井 清夫	瑞穂
〃	27・福祉	岡田みち子	南

新役員紹介と活動目標

「副会長に就任して」

副会長 石川 眞

平成 26 年度の副会長に就任しました、昭和鯨城 (26 期陶芸) の石川です。鯨城会の存在は会員の皆様が楽しく活動することで、自然に地域貢献ができる事が一番だと考えています。これを実現するには各委員会や区鯨城会と今まで以上に連携を深め従来にとらわれず各区の活動等で良い所は積極的に取り入れ、活気ある鯨城会にしていきたいと思っています。又本年度より在校生が大幅に増えこの方々に対し日頃の活動を地域ミーティング等機会あるごと説明し理解を深めていただき、是非鯨城会に入りたいと思われる魅力ある鯨城会作りに河合会長とともに邁進したいと思っておりますので皆様のお力添えをよろしくお願い申し上げます。

「やさしさと気配りを」

副会長 富田 友子

この度、副会長に就任させて頂きました富田友子でございます。鯨城会始まって以来の女性会長の誕生に大変嬉しく思います。男性社会の鯨城会ですので難しい事があるかも知れませんが、区会長様、幹事の皆様ご協力下さいます様お願い致します。

この一年間、幹事を経験させて頂きましたので、それをベースにして各委員長とのパイプ役、河合会長の補佐役として、細やかさ、やさしさ、気配りをモットーにして進めていきたいと思っております。又、区会と鯨城会本部との連携が上手いきます様に頑張ります。

宜しくお願い致します。

「総務委員長に就任して」

総務委員長 岩尾 秀樹

この一年間、西こじょう会幹事として鯨城会総務委員を担当させて頂き、各種会議に同席して先輩方の熱意溢れる議論に触れることができました。そして、このたびは総務委員長を拝命し、身が引き締まる思いがします。

現在は「学園および鯨城会の変革期」にあり、総務の役割りとしては従来より増して「鯨城パワー」を結集することであると感じております。

会員の皆様および役員・幹事の方々との絆を深め、また、学園および学生会との連携を強化し、さらに魅力ある鯨城会作りに寄与したいと思っております。

「広報委員長就任にあたり」

広報委員長 猪飼 甫

コレデイイノカ！ コレデイイノダ 鯨城会では今、激論の渦のなか、中川区幹事として、また鯨城会では広報委員に選出され、目立たず、出すぎず、パソコンできずのアナログ人間の私が 26 年度広報委員長を囃らずも、拝命することになりました。広報の職務として、第一に公明正大、公平無私で活動することを信条とし、業務推進にむけて円滑に運営を心掛けるよう配慮したいと思っております。多くの経験を積み、さまざまな、物事に熟練しているとされる鯨城会員の皆

さん、沢山の情報や知恵をお貸し下さい。

「行事委員長就任にあたり」

行事委員長 楠元 和博

行事委員長に就任しました緑鯨城会所属 (25 期、美術) の楠元でございます。

本年も、行事委員会は例年通り、2 回/年の公開講演会と OB 文化祭を中心に活動していきます。これらの行事は先輩の皆さんのご努力により、いずれも基盤のしっかりした活動に育ってきました。

本年はこれ等の行事をすすめる傍ら、準備作業のマニュアル化を計画的に進め、次世代に繋ぐことを重点活動の 1 つとします。又、特に、OB 文化祭については関係諸先輩の絶大なるご努力により準備段階での過去の紛糾も収まり、環境も整ってまいりましたので、本年は関係者と共に内容面でも一段と質の高いイベントが開催出来るものと期待しております。

その他、並行して、将来を見据え、行事委員会として、鯨城会の為に、「何をなすべきか」を模索してみる為に、有効と思われる調査を立案し、調査を進めていきます。

本年 1 年間、宜しくお願い申し上げます。

「社会奉仕活動委員長就任にあたって」

社会奉仕活動委員長 原 清隆

私事原は、此の度今年度鯨城会の社会奉仕活動委員長を承りました。学園は 24 期 環境科です。区会は北鯨城会です。一昨年、北鯨城会の幹事が中途退会するというアクシデントが有り空席になりましたので、その補充というような形で幹事を受けました。昨年は広報委員でした。館委員長の下で広報誌の編集のお手伝いを多少したかと思っております。

社会奉仕活動委員会は初めてです。会員として鶴舞公園の清掃、堀川清掃大作戦、東日本大震災被災者支援共同募金などに参加しておりました。

今度はこうした行事を担当するという大役を受け責任の重大さを痛感しています。

勿論、私一人でする訳ではありません、諸先輩方のご指導を仰ぎ、委員の方々と相談し、ご協力を得て、明るく、楽しく進めてまいりたいと思っております。

「区会活動委員長に就任して」

区会活動委員長 加藤 純子

平成 26 年度 4 月より、鯨城会の区会活動委員長を一年間務めることになりました。加藤純子で御座います。私なりに出きる限りの努力をしまいたいと思っておりますが、そもそも私はお手伝いの積りで、区会活動の一員として参加しましたので、区会活動委員長という大役に少し戸惑いを感じています。又、鶴舞陸上競技場で行なう鯨城会グラウンド・ゴルフにたくさんの学園の OB の方に参加して頂き、明るい、楽しい、活気の有る、グラウンド・ゴルフにしたいと思っております。私共区会活動委員はその為の準備を怠りなく取り組んで行く所存です。ご協力の程宜しくお願い致します。

平成 25 年度名古屋市高年大学鯉城会決算書

1. 貸借対照表 (平成 26 年 3 月 31 日現在) (単位：円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額
現金	18,034	次年度入会金	383,000
銀行普通預金	2,317,575	区会入会金	766,000
銀行定期預金	1,000,000	学園 30 周年記念事業積立金	1,000,000
		準備金	1,186,609
合計	3,335,609	合計	3,335,609

2. 収支報告書 (平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日) (単位：円)

	勘定科目	予算額	決算額	差額	摘要
収入の部	繰越金	746,922	746,922	0	
	入会金	420,000	426,000	6,000	
	年会費	1,050,000	1,071,000	21,000	
	助成金	342,000	342,000	0	
	雑収入	500	518	18	
	合計	2,559,422	2,586,440	27,018	
支出の部	総務費	180,000	280,969	100,969	コピー・パソコン・事務用品等
	広報費	800,000	738,268	-61,732	会誌 2 回発行・HP管理費等
	行事費	250,000	143,901	-106,099	公開講演会 2 回・OB 文化祭
	社会奉仕活動費	180,000	136,385	-43,615	鯉城会主催クリーンキャンペーン
	区会活動費	130,000	100,308	-29,692	グランドゴルフ開催費他
	記念事業準備費	1,000,000	0	-1,000,000	
	次期繰越金	19,422	1,186,609	1,167,187	
	合計	2,559,422	2,586,440	27,018	

平成 26 年 3 月 31 日
 会長 堀場 慶夫
 会計委員長 渡辺 京子

会計監査報告書

会計帳簿等を調査の結果、適正に執行されていることを認めます。

平成 26 年 4 月 3 日
 監査委員 寺田 耕一郎
 監査委員 林 美也子

平成 26 年度名古屋市高年大学鯨城会収支予算書

(平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日)

(単位：円)

科 目	予 算	摘 要	前年度実績
【収入の部】			
前 期 繰 越 金	1,186,819		746,922
入 会 金	383,000	27 期生 383 名×1,000 円	426,000
年 会 費	1,080,000	3,600 名×300 円	1,071,000
分 担 金	342,000	鯨城誌・区会誌発行 学園分担金	342,000
雑 収 入	500	預金利息他	518
収入の部合計	2,992,319		2,586,440
【支出の部】			
総 務 費	400,000	通信費、文具、印刷機インク他	280,969
広 報 費	850,000	会誌 2 回発行 計 10,000 部	687,968
H P 管 理 費	200,000	パソコン維持費、研修会他	50,300
行 事 費	300,000	講演会 2 回、OB 文化祭 1 回	143,901
社会奉仕活動費	250,000	鯨城会主催クリーンキャンペーン開催費他	136,385
区 会 活 動 費	200,000	グラウンド・ゴルフ開催費他	100,308
次 期 繰 越 金	792,319		1,186,609
支出の部合計	2,992,319		2,586,440



花水木鯨城会の更なる発展を目指して

—千種区— 花水木鯨城会

会長 森川利貞

花水木鯨城会は約 300 名の会員を有し、親睦を柱として社会奉仕活動、各種行事の開催、年 4 回の「花水木だより」の発行、同好会活動等を行っています。

これらの活動を支えているのが、2 年前に発足した「地域会」です。

千種区を 7 中学区に分け、地域によってはさらに小グループに分けて地域会活動を行っています。その活動は夫々の地域長さんのご苦心の基に、自主的な運営がなされており、季刊誌「花水木だより」の発行に合わせて、食事会や行事を計画し、当日に季刊誌の配布や会の運営委員会の議事報告、学園や鯨城会の近況報告・奉仕ボランティアの参加、バス旅行の参加等を呼びかけ花水木鯨城会を盛り上げていただいています。

また、茶屋ヶ坂公園と鹿子公園の清掃も地域会で月別に行っています

地域によっては固有の社会奉仕活動を行っているところもあります。

総会や新年会では 100 名から 120 名の集まりとなり親睦までいかない面がありますが、小集団ではお互いの顔と名前がわかり忌憚のない意見の交換ができる良さがあります。小集団から大きな集団になった区会の先祖返りです。

私たち高年者は年を重ねるにしたがって、近隣の友を得る必要性が高まってくるはずです。

3 年目に入った地域会活動をますます充実させて、さらなる花水木鯨城会の発展へとむすびつければと考えています。

(25 期・文化 A)



健康寿命を伸ばし楽しめる鯨城会

—東区— 東鯨城会

会長 藤井幸男

この度、東鯨城会会長の大役を受けることになりました。微力ではありますが、各委員、全会員のお力をお借りして、先輩の意思を引き継ぎ楽しめる鯨城会にしていきたいと思えます。

本年度の活動は、主な計画として年 4 回の見学会、ふれあい作品展、同好会にて「歩こう会」「牡丹の会」「うたごえ・サロン」、ボランティア活動として特養での喫茶と清掃、福祉会館でのげんき館祭り、堀川清掃大作戦、地域と鶴舞公園のクリーンキャンペーン、広報活動として広報誌を年 3 回発行などです。

東鯨城会は年齢を気にせず活動の積極的な参加をお願いしておりますが実際は鯨城会入会時の平均年齢は 68 歳、したがって鯨城会入会は 70 歳です。

平成 22 年厚生労働省発表では、70 歳時の男性平均余命は 15 年、70 歳時女性の平均余命は

19 年で平均寿命と比べると随分、長生きになります。

健康寿命（心身共に自立し、健康的に生活できる期間）男性平均 70.41 歳、女性 73.62 歳です。

会員の皆様は統計上はすでに健康寿命が終わっている方が大部分です、しかし鯨城卒業生は教育（今日行く所がある）教養（今日用がある）のある方ばかりで現役時代と同様に元気に行動されており一般の方々と健康寿命の比較はできません。

健康寿命を更に伸ばす意味でも会員間の親睦を深める行事、相手への思いやりや自分の喜びにつながるボランティア活動等に気楽に参加できる区会に役員一致団結して取り組みたいと思います。

(26 期・福祉)



ミニ集会で、明るく、楽しい北鯨城会に

—北区— 北鯨城会

会長 水谷元雄

昨年、一昨年と続けて北鯨城会で行事委員長を引受け、今年度の役員はないと思っていたが、様々な事情で会長を引受けることになった。新入会員 18 名を加え総勢 275 名の会員と船出すると共に、来年 25 周年に向けて会員の皆様と一緒に進んでいきたいと思っています。

区会の設立と理念に示されている様に、“会員のいきがい、助け合い、親睦並びに地域社会への貢献”を再確認し、明るく、楽しく活動に参加してもらうために、今年度より新入会の 27 期の方には、総務、広報、行事、社会奉仕活動のいずれかの委員会に入っただき役割分担で活性化してもらい、クラス・クラブ OB 会と地域活動の参加と共に、区会行事へも積極的に参加も期待している。

主な活動は、会員情報の、会報誌「北鯨城ニュース」の年 2 回の発行、会員相互の親睦の見学会、日帰りバス旅行、北生涯学習まつり協賛の作品展、発表会、黒川ギャラリーでの「趣味の作品

展」、忘年会、名城公園でのお花見「観桜会」そして、社会奉仕活動では名城公園での毎月 2 回の清掃活動、夏場での「あさがお塔」の 8 週間毎日の水やり、花壇の管理、“区民まつり”での自転車整理、清掃、3 月のマラソンフェスティバルの沿道整理 名古屋城春まつり での協賛の清掃等 ボランティア活動も少しずつ増えています、これからも出来ることから地域に貢献できればと思っています。又、各地区 8 ブロックで月 1 回の朝のモーニングをいただきながらの区会の現状、幹事会での報告、各行事の参加案内、募集等コミュニケーションをはかるミニ集会在定着化しつつ、会員相互の親睦に成果をあげていますが、区会の役員となると尻込みをしてしまい、役員の担い手がありません、このままでは会の運営に支障をきたすことになりかねません。一人でも多くの方が北鯨城会設立の理念のもと各行事に参加していただけたら活性化につながるとと思っています。(24 期・生活 A)



—西区— 西こじょう会

思うこと

会長 小岩孝志

今年 23 年目を迎えた西こじょう会の 12 代目の会長を任せられ、今まで諸先輩方が築いてこられた伝統をどのように守り、引き継ぎ、更にもどのような事に取り組むべきなのかを思い描き、責任の重さを痛感しています。

高年大学の存続問題は一応の決着は図られたものの、鯨城会の NPO 法人化については、平成 26 年度の代議員会にゲタを預けるという状況下であり前途の多難が予想されます。全会員へのアピール文書を昨年 6 月に配布するとなっただけで実施されていないこと、16 区全体が賛成しなければ設立しないということも、いつのまにか過半数の賛成があれば進めるという方向に変わってしまいました。このような進め方が反発を招き事態の収束を困難にしているのではないのでしょうか。NPO 法人化ありきで拙速に事を運ぶべきではないと考えます。

「西こじょう会」の会員総数は入会 36 名、退会 27 名で昨年に比べ微増となりました。在籍されていても行事、ボランティア等に参加出

来ない会員が多くおられますが、広報誌が楽しみという会員もおられます。学科・クラブの仲間との活動の方が楽しく、そちらを優先し「会」の活動には参加しないという話も聞こえてきます。また入会して 1 年後に退会される会員もいます。そういう人達に一人でも、一年でも多く活動できる魅力のある「場」を提供出来るかが課題と感じています。昨年、以前から活動している「江南線をきれいにするかい」を起爆剤にして「比良～大野木幹線道路をきれいにするかい」が派生し新しい活動を始めました。こういう活動がさらに地域を広げ拡大していくことを願っています。

伝統を守り引継ぎながら、新しい課題にも取り組んでいきたいと考えています。本年のスローガン「生きがいと 地域をつなぐ 西こじょう会」のもと、微力ながら最善を尽くしますので、ご理解とご支援、ご協力をお願いいたします。

(25 期・美術)



参加したい行事増を目指すと共に、行事参加者の増加を

—中村区— 中村鯪城会

会長 杉 浦 弘

中村鯪城会は4月4日に平成26年度の定時総会を開催。7名の新入会員を迎え、会員178名の組織にてスタートしました。

当区鯪城会は老人介護を中心とした福祉活動は他区と比べ、大変活発に行われている。しかし地域に喜ばれる美化活動、散策を中心とした行事、クラブ活動、地区単位の会員相互の活動は他区と比べ劣っており、会員全体から見た場合、かなりの部分が役員中心に動いているのではないかと危惧している。

ボランティア活動は十分に実施しており、むしろ楽しく・仲間作りの場としての行事の増加を目指したい。その中で一部ボランティア活動も入っているということで十分と思っている。外にできるだけ多く出て、色々な方々と楽しく会話することが健康で、またボケない秘訣であり、いろいろな方々に負担を掛けないことが社会貢献でもある。

各区の鯪城会だよりはそれぞれの区の活動状況が紹介されており、参考にすべきことが多い。鯪城会の代議員会などでは各区の方々とお会いすることができ、活動に対する疑問点や推進に対する注意点が聞け、中村鯪城会の推進に役立つと期待している。

鯪城ニュースも例えば区のクラブの中でもう少し人数が多くてもよく、他区から何名までなら入会が可能な同好会もあると思う。そんなクラブを紹介するなど、少しでも外に出られる場作りをして欲しいものである。

今年度の各種行事計画は決まっているが、クラブ数・行事の追加など増やせられるものは追加を目指すとともに、今年度反映できないものは次年度計画に反映するなど、会員全体から喜ばれる“楽しい仲間づくりの場”を進めたい。

(25期・園芸)



楽しい中鯪城会に！

—中区— 中鯪城会

会長 山 田 晴 久

中鯪城会には、昨年3月中鯪城学園の卒業と同時に入会しました。そしてまだ何も判らない内にすぐ副会長を仰せ付かり、本年度は自動的に会長という大役が回って来ました。至りませんが宜しくお願い致します。

名古屋の中心部にある中鯪城会他区の会に比べ、人口比率的にも人数が少なく、色々なボランティア活動では人的派遣に支障がありました。

私は楽しい会の運営を目指し無理な活動は控えた方がいいと考え、前会長のモットーの「会員の絆を強め、元気で長生き」を合言葉に、「生き甲斐を持って、毎日が楽しく過ごせるよう」そして今、中高年の流行り言葉の「きょういく」と「きょうよう」すなわち「今日行く用事がある！」、閉じ籠りを無くし、目的を持って遣り甲斐、生き甲斐のある日々が送れるような「中鯪城会」を目指したいと思っています。

中鯪城会のボランティア活動の大きな柱の一つは「特別養護老人ホーム・ユートピアつくも」の喫茶サービスです。この活動は、もう23年以上も先輩達が受け継いでいる長い歴史のあるボランティア活動です。ただ、これも毎週月曜日、木曜日と日数が多く、会員の奉仕には限界も有り、

継続の難しさも有るのが現状です。

本年度は新たに27期生の15名の皆さんが加わり奉仕活動に積極的な参加を期待しています。

2月の親睦バス旅行には、中鯪城会のメンバーだけでは予定の人数が足らず、他の鯪城会の応援を得て、無事に楽しく親睦旅行を実現できました。

この経験から、会員人数の少なさの弱点を、「小所帯特有の温もり感覚での仲間作り」や、色々な行事にも「他の会との連携や交流を積極的に深める」方向にもっていくようにしたいと考えました。

その他「中区美化清掃」「社会見学」「観劇」「講演会」「ぼらネットなかまんなか」等の従来からの多彩な活動にも、交通機関等、地の利の良さを生かし、今まで参加経験の無い会員の方々に「一言声掛け」をして仲間に入って頂ける様に努力もして参ります。

又、会員皆さんの「声を聴き、活かし、育てる！」それが「地域社会への貢献！」として鯪城学園の卒業生としての在り方でも有ると信じ、皆さんのご協力に期待し、お願い申し上げます。

“楽しく 明るく 元気よく！”一緒に活動して参りましょう!!

(26期・環境)



昭和鯨城会仲よく楽しく

—昭和区— 昭和鯨城会

会長 大野 俊 介

昭和鯨城会は、親睦と、健康増進、そして社会貢献を柱としています。

「健康」はこの年になると維持するだけでも難しい課題です。体を鍛えるのは難しくても、健康で医療の助けをミニマイズできれば社会貢献の一つになるでしょう。外に出て、仲間を作り、言いたいことを言い、やりたいこともして楽しく元気に過ごす。これで健康維持を図ります。その為に昭和では、従来のクラブ活動に加え、更に多くのイベントを実施しています。ご紹介します。

- (1) 早朝ボーリング…第四日曜日 朝
- (2) 手作り料理とワインの会…第三月曜日 夕刻から
- (3) B級グルメのランチ会…第三火曜日 昼
- (4) 初心者麻雀…第三火曜日 午後
- (5) 親睦ゴルフ…不定期

昨年度 26 期が計画・試行し問題点を改善し、

いよいよこの 4 月から全会員の皆様に案内します。

基本ポリシーは、「皆が楽しく参加できる」です。その為に、①各人の意見・行動を尊重すること、②皆が平等であること、③他人に強要・強制しないことを心掛けます。

さらに

- (1) カラオケ
- (2) 旅行（バス、電車、海外など）
- (3) 趣味の陶芸教室（土鈴、皿、茶碗、動物など）
- (4) 男の料理教室（女の和菓子会）
- (5) 歩こう会（ハイキング、ウォーキング、軽登山など）等を計画中で 5 月から徐々にスタートします。どなたでも参加自由です。

和をもってその輪を広げていきます。その上でボランティア活動も（おしゃべりやランチを）楽しみながら、更に自主的参加のムードに高まることを期待しています。（26 期・文化 A）



—瑞穂区— 瑞穂鯨城会

伝統を繋ぐ意味

会長 久保 洋 之

高年大学を卒業と共に鯨城会（瑞穂区）に所属して早くも 1 年が経ちます。そこは建学の精神である各個人の生き甲斐作りと地域貢献の実践の場であります。

瑞穂区でも先人達が累々と伝統を築かれました。各種のボランティア活動（休日に施設の管理、リハビリ者への付添い、公園・バスターミナルの清掃、街路樹の保全、被災者への募金活動等）や、地域活性化への活動参画（わくわく瑞穂祭り、しめ縄教室等）を和気藹藹と活動しています。

その様な社会貢献活動を通じて、お互いに気心が通じて絆が出来、各種の同好会活動やその

他の活動も活発になり健康増進に役立っている様子が分かります。

図らずも先の総会で会長に選任され、この伝統を受継ぐ事になりましたが、より楽しく活動する事と、会員それぞれの事情に応じてより多くの人が参加出来る様な企画運営したいと思えます。それにはなるだけ多くの人の意見を吸い上げる日頃の会員交流、そして運営を担う 26 期 27 期生の全員が共通認識を持って活動する場を提供する事です。即ち『皆んなで作る瑞穂鯨城会』を目指します。その先に暮らし易い地域社会が醸成されて行くものと確信します。

（26 期・生活 A）



会員相互の親睦とご協力を

—熱田区— 熱田鯨城会

会長 木村 鉦輔

熱田鯨城会は4月16日に26年度の総会と歓迎親睦会を名古屋国際会議場2号館にて開催しスタートいたします。平成元年に熱田鯨城会が発足し、今年が25周年の年となり記念事業が計画され機関紙「花しょうぶ」の記念特集も企画し、また、ボランティア活動で着用するユニホームを作成します。役員は25期生・26期生が担当することになりました。この1年間会員の皆さん、ご協力よろしくお願い致します。熱田区は26年度も27期生の卒業生は少なく新会員8名が入会することになり、また再入会も含め10名の増加となりますが、退会者もあり会員数は100名を切っています。これからも増員は期待できませんが会員の数ではなく活動で会員のみなさんとのコミュニケーションをとり、熱田鯨城会を盛り上げて奉仕活動など、会員のみなさんのご協力と、そして役員の方で運営していきたいと思っています。熱田鯨城会の活

動方針にも謳われています会員相互のつながりを大切にして、地域のボランティア行事に積極的に参加し、道路清掃奉仕、特養なごやかハウス横田デイサービスセンターのボランティア、あったかあつた福祉フェスタ、熱田生涯学習まつりへの参加など楽しく有意義な活動となるよう努め地域から評価される熱田鯨城会を目指し、それが会員の健康にもつながるのではと思っています。「歴史と文化のまち」熱田区の特徴を活かした活動に取り組み、楽しい親睦会、中学校区担当行事、施設見学、名所旧跡めぐりなどを行い、また、各種同好会活動をされている皆さんとの親睦を深め楽しい1年にしたいと思います。この1年間無事に会を運営し努力していきたいと思いますが、役員、会員の皆様のご協力あってのことと思います。各種行事に一人でも多く参加して楽しい区会にしたいと思います。よろしくお願い致します。(25期・健康)



新生「鯨城会」に期待する

—中川区— 中川鯨城会

会長 山守 実

当区会の26年度新入会員は、女性22名、男性9名と、これまでにない女性優位、総勢250名余の男女比は大凡6対4となっています。

さて、NPO法人化で侃々諤々の議論がなされたと聞いています鯨城会も「雨降って地固まる」新年度、しかも女性会長の誕生で新生・鯨城会としてスタートすることになると思いますので、これまでの男社会的運営とは、趣が異なる感性豊かな運営内容に変革することを期待しています。

当区会も安倍政権の成長戦略に習って、初の女性会長誕生の機運を創るのも運営活性化に繋がる手立てかもしれません。また会員の総数より、行事等への参加率を高める方策が課題と考えています。

その課題に関連する最近の動きを紹介します。

一つは、当区会のビッグイベントであり、例年他区会に先駆けて開催する作品展は、本年度で12回を数えます。この作品展に初の試みとなる会員有志がテーマを設定し、出展作品を共同制作しようとする女性サークルがスタートし

ました。指先を使う手芸は、認知症予防にもなり、男性の参加も歓迎とのこと、テーマは『101匹ワンちゃん』です。工夫を凝らし、女性の感性で演出されたディスプレイを想像しただけでワクワクしてきます。2つ目は、確実に衰える体力より心構え次第で若さを保てる気力を必要とし、終生楽しめる場作りを目指す『雑学クラブ』と称する男女の集いが発足しました。これは、見る・食べる・聞き学び遊ぶ、一昔前のJTBの旅ブランド『るるぶ』の世界を楽しむプログラムが用意されたクラブで、やはり女性の発想から生まれました。

鯨城会はストレスを発散し、楽しく豊かな時間が消費できる機会が用意された場であり、地域社会との関わりを生涯現役として実感できなければ、長寿社会での存在感はないと思います。この一年間を多に楽しみ、鯨城の縁をさらに広げ、充実した人生のプロセスとして鯨城会を活かしたいと考えています。

肩の凝らないお付き合いを、よろしくお願い致します。(25期・環境)



平成 26 年度 「活動方針」

一港区一 港鯨城会

会長 高 橋 喜久男

《活動状況》

港鯨城会は、4月22日（火）に定期総会を盛大に開催致しました。27期生5名が新しく入会され、退会者11名で会員数は、前年度よりやや少ない81名の組織で26年度をスタートする事になりました。16区中で、最も少ない会員数ですが、少数精鋭で極めてまとまりのある良い組織ではないかと思っています。

少人数の為に、予算的には、厳しい状況にあります。創意工夫して、知恵を皆さんで出合って効率的に運営をしたいと考えています。

「ボランティア活動計画」

- ・地域に密着したボランティア活動を積極的に推進する。
- ・無理をせずに、誰でも楽しく参加出来る体制づくりを目指す。

◆本年度も港区社会福祉協議会のボランティア団体として実践し、地域と連帯して活動する。

☆港区社会福祉協議会と港区ボランティア連合会主催で「ボランティアとあそび」というイベントを港社協において応援する。

☆港区社会福祉協議会と港区役所主催の港ふれあい広場で、『輝く未来 2014』を10月に港

北公園と港区役所講堂にて開催されます。

☆港社会福祉協議会からの要請で、港鯨城会も協力して、荒子川公園「なかよし菜園の種まき」活動を応援する。

☆港鯨城会の恒例になっている『とだがわごともランド』でのボランティア活動を、年間を通して応援する。

本年も下記の内容を計画しています。

- ①年間5回の花の植え替え実施（5月、7月、9月、12月、3月）
- ②5月のこどもの日を中心にした「こどもまつり」 5/3～5/5日の応援
- ③8月の「とだがわスポーツ大会」8/30～8/31日の応援
- ④10月の「とだがわこどもランド」（秋祭りのボランティア）10/11～10/12の応援

★港鯨城会主催の行事への出席率向上を目指す。

★会員皆さんが気軽に参加出来、楽しくコミュニケーションが出来るように努める。

★同好会等に、参加しやすい雰囲気作りに努める。

※鯨城会、会員皆様のご指導と、より一層のご協力をお願い致します。（26期・文化A）



一南区一 南鯨城会(こなみ会)

楽しい鯨城会をめざし

会長 市 川 公 一

南鯨城会は今年設立24年になる大変に長い歴史と伝統があります。この歴史と伝統を維持しなければならないので、大変な重責です。会員の皆様の暖かいご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

区会の方針は学園の主旨に則り「地域社会への貢献」「奉仕活動の実践」「会員相互の親睦」で、その目標達成のため研修会、見学会、奉仕活動、懇親会、会員の親睦を深める行事を実施します。この方針はこれまでと変わりません。

南鯨城会は今年度、27期生21名の入会がありました。そして会全体の会員数は198名となりましたが退会者も相当数あり、会員数は計算通りには増えません。総会員数は、ほんの少しですが増えており、喜ばしいことだと思っていますが、退会者も相当数あるのは寂しい気持ちにもなります。

退会の理由はご自身の健康問題、親族の介護が主な理由となっています。会員の方々には日々、

健康に一層留意されまして、長く鯨城会でもご活躍をお願いします。

また、区会の行事、奉仕活動、親睦会への参加者数が残念ながら少なく、いつも同じような顔ぶれの参加と言う時も見られます。この点も残念なことで、もっと多くの人、幅広い層からの参加が望まれ、いろんな行事や奉仕活動にご参加いただき、会員相互の親睦を深めて頂きたいと思えます。ボランティア活動は参加して初めてその楽しさが体験できます。

区会は「楽しくない」と言う声をよく聞きますし、自分もそう思う時もありました。「楽しくない」という言い方は少し乱暴で、無責任に聞こえますが、この問題は区会で真剣になって、取り上げなければと思っています。

区会活動をどうすれば「もっと楽しくなるのか」このことを常に念頭に置きながら、活動を実施していきたいと思っています。

（25期・生活A）



—守山区— 守山鯨城会

明るく、楽しく、元気よく

会長 江 端 寛

守山鯨城会は今年度新たに27期生31名が入会され296名となりました。その反面で亡くなられた方2名を含む39名の退会者を出した事は、NPO法人化でゆれる変革期のさなかとはいえ残念な事態となりました。

その観点からも今後の鯨城会の区会活動は諸先輩が築いた伝統を大切に引き継ぎ、会員相互の交流・親睦をさらに発展させると共に、着実に拡大している地域貢献活動を一層充実させていく事が使命だと考えます。

当会は、総務・広報・行事・ボランティア・会計5つの委員会と7つの地域会の構成で活動をしています。

青少年育成では名古屋市の児童自立施設「玉野川学園」の環境整備と園内にある花壇の管理、農園の整備、そして農野菜の栽培では生徒さんと交流を図っています。

畝作り、種蒔き、苗の植え付け、水やり、除草など学園側授業のカリキュラムの中で一緒に作業を行います。また花見会、収穫祭、園遊会など多面的にも参加しています。

昨年11月に農園で収穫された野菜を使って学園内で生徒さんと一緒に「いも煮会」を開催しました。会員71名、先生・生徒合わせ17名総勢88名の参加でした。

生徒全員が全寮制で親と離れての学園生活です。最初のうちは緊張していたせいか遠慮がちだった生徒さんでしたがいつの間にか話しの輪の中に入り、弾む声と笑顔があちらこちらに見られ賑やかな楽しい会となりました。

後日、園長さんから感謝の礼状と生徒さん一人一人からの感想文が届けられました。

奉仕活動ではボランティア委員中心として瀬戸及び竜泉街道の美化活動、アピタ新守山店の買い物介助支援等々の活動を行なっています。

会員相互の交流と親睦を深める機会は日帰りバス旅行、趣味の作品展、社会見学会、同好会、広報より守山鯨城ニュース(2回)、かわら版(4回)、等々各担当者が会員の安全、安心を考慮しながら計画を立て活動し、更なる飛躍を目指して「明るく、楽しく、元気よく」良い会にしていきたいと考えています。(25期・園芸)



—緑区— 緑鯨城会

伝統を引き継ぎ、さらなる飛躍を

会長 近 藤 仙 治

この度、図らずも緑鯨城会会長の大役を拝命致しました。緑区は人口も多く、大高緑地等緑が多い地区です。当会は今年、27期の新加者51名を加え総勢387名の大所帯の会と成りました。設立以来二十数年を経て先輩の皆さんが築いてきた多くの歴史が有ります。中でも今年で19回目、出品数300点の「作品展」、大高緑地の「区民祭ブース出展」、更に「各種のボランティア活動」等に伝統の重さを感じています。私は今年、これらに多くの皆さんに参加して頂くため、気楽で楽しい行事とし、更に飛躍したいと考えています。当区の委員会は、総務・作品展・区民祭・行事・広報・ボランティア・会計・期別があります。各委員会では本年度“楽しく、さらなる飛躍を”を目標に①楽しく！

和やかに！ (ボランティア) ②仲間との交流を(行事) ③幅広い層からの寄稿募集(広報)

④期別毎の親睦と期別間の情報交換(期別)、中でも当区の特徴である「期別」は各期の連携と懇親の担当委員として重要と考えています。私は25期環境学科卒ですが、期別・学科毎の鯨城会への加入率が毎年の課題(低い?)となっています。お互い年齢を重ねると今までの自分を変えるのは大変難しい事です。従いまして、より多くの皆さんの参加を得るために、区鯨城会は義務(社会貢献)を負う処では無く“楽しい会”と会員に思ってもらえるよう運営して行きたいと考えています。それが“社会貢献”に通じます。これらを実現の為会員の皆さんと一緒に、そして新役員と共に進めて参ります。各区の会員の皆さまの一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

(25期・環境)



本年度の会員対象重点事業について

一名東区一 名東鯨友会

会長 栗 木 一

本会の会員を対象とした平成 26 年度主要事業について若干の解説を加えながら記述した。

1 研修旅行

本会の会員参加の伝統的的事业であり、毎回、観光バス利用の人気の日帰り旅行である。

昨年度同様、本年度も 5 月の「百草丸工場見学と奈良井宿」を皮切りに 11 月まで県内、県外の 6 回開催する。本年度も例年通り、観光バス満杯で、実施出来るよう期待したい。

2 会員発表会

毎年 1 月開催の「会員発表会」。毎回、会員が自分の特技を 1 時間 30 分程度、熱演する。各部門の優れた隠れ技のご披露。ここ 2 年間は「落語」「歴史の話」。さて今年は何を！

3 ボランティア事業

本会には 4 つのボランティア団体がある。老人福祉施設でのお手伝い、俳句、書道等の指導を始め、区内の花壇の整備、除草作業、歩道の清掃及びデイサービスセンター入所者との買い物、散策の介助等、幅広く、年間を通して奉仕活動をしている。(会員登録制)

これに加え、これまでよりボランティア事業を、充実させるため、試験的に昨年度、本郷公園で

全会員を対象にしたボランティア事業（清掃作業）を実施した。

その結果を踏まえながら本年度から、新規事業として、中学校区を拡大した単位で、区内 4 地域での公園清掃を年 2 回程度実施したい。また清掃後は例えば、「防犯教室」、「太極拳教室」の開催など参加者にとって興味がある行事も併せて実施し、「出やすい環境づくり」に努めたい。

4 同好会

スポーツ関係、趣味的等同好会が、現在、9 つある。同好会によっては超満員で、盛況である。

5 学区懇談会

地域の会員仲間同士のコミュニケーションの場所として、大きな役割を果たしている小学校校区ごとに開催の「学区懇談会」を本年度も継続したい。飲食をしながらの仲間との意見交換会を始め、「タイムリーな名東鯨友会としての課題」等を話し合う機会として、その意義は大きい。

6 総合美術展

歴史が浅く今回が 3 回目であるが、出品数、観覧者数の増加を図る方策を考える必要がある。
(25 期・生活 A)



健康第一、仲良く楽しく、地域に貢献

一天白区一 天白こじょう会

会長 齊 藤 昌 和

南区から天白区に引越して 35 年になりますが、この間自宅と会社との往復のみで地域の方々との繋がりは全くなく過ごしてきました、鯨城学園に入学し、卒業後に天白こじょう会に入会に、ボランティア活動や町内会を通じて地域が果たしている役割の大切なことを、初めて知った訳です。

26 年度活動は基本的には昨年度の活動方針の継続、会員相互の親睦、学園で学んだ知識と経験を生かし、地域活動に参画すると共に社会奉仕活動により広く地域社会に貢献をする事です。

具体的に天白こじょう会の活動方針としまして三つ上げたいと思います

- (1) 卒業生の入会率を上げる事、27 期生卒業生 38 名の内入会者 24 名にて 63.2% 16 区中で 13 位でした、28 期生の目標は 10% UP 75%
- (2) 卒業生の内未加入者の方々に入会を勧める活動をする
 - (1) 同じ町内 (2) クラス OB 会 (3) クラブ OB 会の声掛け運動
- (3) 楽しい会運営で脱会者を少なくする
入会率を上げるためには、卒業したらまず区に

入会するという気風を作ることが必要に思います、入会すれば楽しく、仲良く活動して、地域に貢献できるという事だと思います、すぐに成果は出てこないとおもいますが、先輩たちの活動をとおして、粘り強く気風を作っていきたいと思います、そのためには活動状況の把握が必要ですので、対策としまして

- ① 同期会の開催
- ② ブロック長会議の開催

を必要に応じて随時開催したいと思います
その中にて各行事やボランティア活動への参加要請、同期会員の相互の交流、等を計って行きたいと思います。又行事やボランティア活動に未参加の会員に対しても、参加することにより脱会を防ぐ手段になるものと考えております。そのためにはまず健康が第一です。次に会員が仲良く楽しく活動に参加し地域に貢献できればと思います。

最後に鯨城学園文化学科・短歌講師の杉本容子先生の短歌をご披露致します。天白こじょう会の為に作って戴きました。

見えぬもの見えて輝く春の空たとえバ雲を押してゆく風
(26 期・国際)

鯨城会一年を振り返って

名古屋市高年大学鯨城会 25 年度会長 堀 場 慶 夫

鯨城会会員の皆様、日頃は鯨城会事業にご協力いただきまして有難うございます。

一年を振り返ってみますと色々な出来事がありました。

平成 23 年度は名古屋市事業仕分けで廃止の評価を受け、その後鯨城学園存続に向けて請願署名等を会員の皆様と一緒に取り組み、存続できたことは大きな成果として思い出に残る出来事でした。そして引き続き、平成 26 年 4 月より社会福祉協議会が指定管理者となり安心した出来事でもありました。ただ、平成 26 年より学園に対して大幅な見直しがされました。

名古屋市による見直しの主な内容としては、授業料の見直し、実習費の見直し、クラス数の見直し、学生数の見直し等があります。(詳細については鯨城ニュース 25 号掲載参照)

鯨城会としては、鯨城会会員の皆様にアンケートを実施し、学園サポーターの導入 (22 名応募)、専門講座講師の派遣 (15 名応募)、NPO 法人の取り組み等です。

【鯨城会行事としての取り組み】

- ・堀川清掃大作戦…納屋橋シャムズガーデン中央広場に本部を設けてセレモニーを開催。鯨城会、学園、学生会、堀川と生活を考える会全体で 1,000 名規模での開催でした。河村市長の挨拶で始まりましたが、当日は 30 度を超える猛暑で大変な一日でした。テレビ、新聞等で報道されましたので、鯨城学園のアピールが出来、一般市民皆様の関心が高まったものと思います。
- ・鶴舞公園クリーンキャンペーン…雨の予報で一週間延期になったにも拘らず、300 名以上の参加者があり、会員皆様の社会貢献活動の意欲の高さに驚かされました。
- ・グラウンドゴルフ交換会…年 2 回開催していますが、参加者の人数が回を重ねるごとに多くなり、盛大の中で親睦を図ることが出来ました。
- ・公開講演会…年 2 回開催しましたが、来場者アンケート調査によりますと 80% 以上の方によかったとの評価を得ています。
- ・鯨城 OB 文化祭…今年度は出演クラブが 11 クラブですが、当日は雨のため来場者を心配しましたが、全体で 600 名超の来場者があり、来場された皆様には十分楽しんで頂けたと思っ

ています。

- ・区会活動説明会…在学生の皆さんにとっては授業の一環ですが、冬休みの期間中のため参加者が少なく、開催方法については今後の課題として残った。

【NPO の取り組み】

平成 24 年 8 月社会福祉協議会より鯨城学園あり方提言書により、平成 24 年 9 月 24 年度代議員、役員で「今後の鯨城会をよくする委員会」を立ち上げ検討を始めた。

毎月検討会を重ね、平成 25 年 4 月には 25 年度各区鯨城会会長が 4 分科会の組織に所属し、各分科会で検討した内容を全体会議の中で発表し検討した。

4 分科会の中で NPO については、NPO 分科会が中心となって色々な問題点を検討してきた。その後 NPO 設立準備委員会を立ち上げるかについて、各区代議員、役員で票決を行い過半数の賛成があり、NPO 法人準備委員会を立ち上げた。(NPO 法人にすることを決定したものではありません)

詳細については、各区鯨城会会長より皆様には経過報告しています。

その後、鯨城会組織改革委員会(名称変更)で会議を重ねてきましたが、平成 26 年 2 月鯨城会組織改革委員会出席代議員で討議をした結果、NPO 法人に反対している鯨城会との歩み寄りが出来ないまま進めるよりも「審議未了にて保留」として、次期代議員に一任するという結果で纏まり、3 月臨時代議員会に提案し承認された。

従って、予定していた平成 26 年 10 月の総会 は取り止め、平成 27 年 4 月 NPO 法人立ち上げについては、見合わせる事となった。

【鯨城学園 27 期卒業生鯨城会加入状況について】

鯨城会加入率状況については、73.8% (昨年度 79.1%) 年々悪くなっている状況です。

今後鯨城会として、加入率を高めるためにどのような方向に進めていくのか、大変重要な課題です。

最後になりましたが、鯨城会会員の皆様には一年間大変お世話になり有難うございました。今後鯨城会がますます発展しますよう祈念して終わりとさせていただきます。

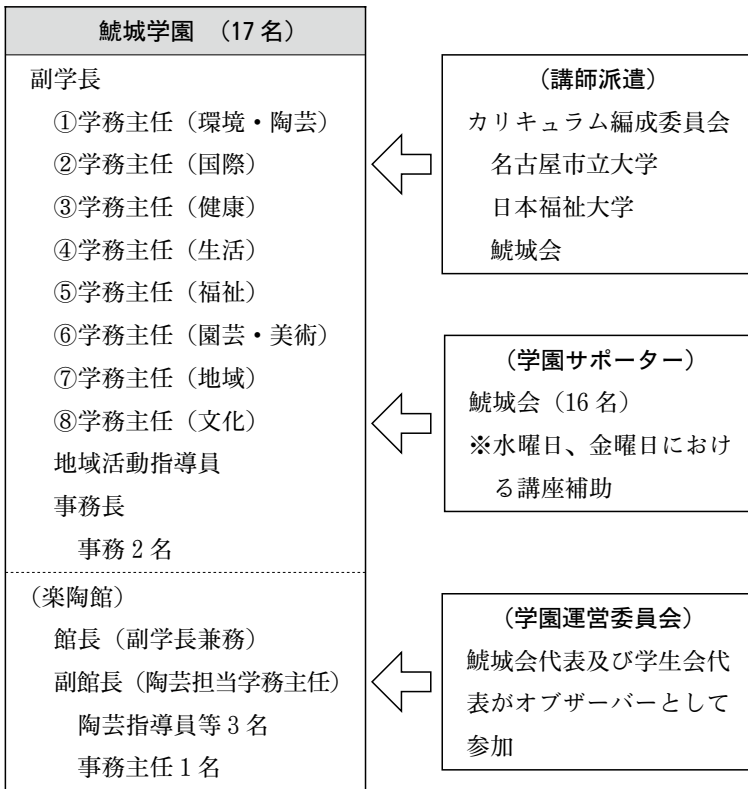
鯨城学園だより

平成 26 年度高年大学鯨城学園の新たな組織について

高年大学鯨城学園事務長 渡 邊 文 邦

平成 26 年 4 月より、新たに名古屋市社会福祉協議会の指定管理（第 3 期）による学園の運営が始まりました。抜本的な見直しの内容は、鯨城ニュース等でご存知の方も多いとは思いますが、改めてその概要についてお知らせいたします。組織、人員、カリキュラム、各種事業など多岐にわたりますが、主に学園の新たな組織についてご説明いたします。

(学園職員体制)



(1) 職員体制の変更

従来の学科担当「教授」の名称を「学務主任」に変更し、10名体制から8名体制となりました。講座は原則外部講師とし、学務主任はカリキュラムの編成、外部講師の招聘、クラス活動の支援等を行います。

(2) 講座の充実

充実した講座を目指し、外部講師確保のため、2大学との連携を図ります。また、鯨城会の協力のもと、学園卒業生を講師に迎えることとし、この三者でカリキュラム編成委員会を組織し、講師の調整を行います。さらに、学生定数の増加に伴う講座数の増加に対応するため、経験豊富な学園卒業生の活用として、鯨城会の協力により「学園サポーター」を導入しました。

(3) 鯨城学園運営委員会への参加

学園運営委員会は、年に2回開催をいたしますが、当該委員会に鯨城会代表

と学生会代表にオブザーバーとして参加いただくことといたしました。

以上主に人的な組織体制についてお知らせしましたが、鯨城会の皆様の学園運営における役割が不可欠なものとなっております。今後ともより一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

人 事 異 動

(平成 26 年 3 月 31 日付)

副学長	退職	松浦 滋
地域活動指導員	退職	伊藤 建士
生活学科教授	退職	岡田 修
文化学科教授	退職	市川 直啓
陶芸学科教授	退職	吉田 誠
美術学科教授	退職	鈴木 靖之
環境学科教授	退職	櫻井 隆司
福祉学科教授	退職	豊嶋 睦夫
事務 (主事)	退職	高橋 彰子
陶芸実習指導員	退職	寺澤 香織

(平成 26 年 4 月 1 日付)

副学長	昇任	喜多島 慎
地域活動指導員	再雇用	鈴木 雅彦
学務主任 (環境・陶芸専攻)	採用	楳木 茂賀
学務主任 (国際専攻)	採用	田近 哲夫
学務主任 (生活専攻)	採用	渡部 進
学務主任 (福祉専攻)	採用	植田 泰司
学務主任 (文化専攻)	採用	森 文代
事務 (主事)	配置換	堀田 博資
陶芸実習指導員	採用	谷川 長太

改革元年のスタート

28期学生会会長 稲 熊 伸

時は過去、現在、未来と流れながら僅かずつではあるが万物を変えて止まない。鯉城学園もそこから漏れることは無いようだ。

市の行政評価により「廃止」判定を受けてから、鯉城会の多くの皆様方と鯉城学園学生会の協力で行われた存続請願活動が実り、社会福祉審議会で「抜本的な見直しが前提ではあるが、継続が妥当」との答申がなされた。

このような先輩諸氏の大変な奮闘の結果、28期生の入学が可能になり、更に学園運営の抜本的な見直しが行われて最初の入学生（29期生）を迎えることが出来るようになった。私自身はこのような、学園にとっての非常事態が起こっていたことを、入学するまでは他人事としてしか捉えていなかった。

入学して、協議会活動に参加したところで初めて前記の内容を知るところとなり、改革前夜の準備作業の一つに携わることになったのである。入学定員が増えることでクラブ活動がこれまでの29クラブでは定員オーバーとなり全員参加体制が崩れるのだ。これを解決する為に学生協議会の下にクラブ新設小委員会が設けられた。小委員会の行動は素早く、新設クラブ候補名の募集から全学生に対するアンケート等、更に講師・施設設備などの条件を加味した絞り込み等で最終的に8クラブを決定した。新設クラブ員の募集や当面の運営等をサポートする「アシスタント」を27期生の有志が務めることでクラブ新設小委員会の役割を終えている。27期の協議会委員の活躍は素晴らしいものがあった。

さて「抜本的な見直し」による入学定員の増加は、クラブ活動のみならず、「体育祭」や「文化祭」等にも影響が及んでいる。過去28回の開催を誇る体育祭について、従来の中村スポーツセンターでは観客収容定員が鯉城学園生の1年と2年を合わせた全員を下回るようになってしまった。そこで別の施設の選定が急がれることになった。交通の便と安全や器具の運搬の便、費用等を考慮し現地視察によって数ヶ所出てきた案の中で稲永スポーツセンターを第一候補、枇杷島スポーツセンターを第二候補として選定

するも、希望する日時では難しく、日程を遅らせての利用申し込みとなった。しかも結果の判明が12月末であったため、文化祭の日程も決まらず体育委員会だけでなく協議会全体としても焦りを禁じ得なかった。体育祭の日程が決まると文化祭の日程もほぼ自動的に決まった。

年度末は、特にクラブ委員会が、新年度のクラブ登録に向けた準備作業に大忙しであった。特にクラブ説明会は前年度の方式を変更したため、説明会・登録会が終わるまでは気が抜けず、又苦勞の多い毎日であった。

平成26年度が改革元年スタートではあるが、それ以前からすでに改革の幕は切って落とされており、体育祭の応援・競技種目をどうするか、文化祭に於けるホール行事、特に展示行事は物理的な収容問題にどう対処するか等学生会（学生協議会）は、山積している問題の解決に向けて努力を重ねている。

学生が、高年大学入学を希望した動機には『やるべき事を見つきたい』『友達をつくりたい』『ボランティアをやりたい』等々何かを得ようとしてであって、学園に来て楽しい、人にも勧めたいという気持ちが生じるようではなければならない。次世代につなぐ鯉城学園を築き上げるため、これまでの学生会活動の実績を堅持しつつ、時々には於いて学生の経験と力が発揮出来るような活動の場や機会が提供出来ればよいがと願っている。

【閑話休題】

各区鯉城会と地域老人会との関係がよく分からない。全く独立していて同じようなボランティア活動をしているようにも見える。福祉協議会と区の福祉課の横のつながりが弱いからなのか、少し考えてしまう。

第 11 回グラウンド・ゴルフ交歓会成績表

平成 26 年 3 月 24 日(月) 鶴舞公園陸上競技場 参加人数 249 名

	順位	氏名	区	2ラウンド(16ホール)			順位	氏名	区	2ラウンド(16ホール)	
				1打回数	2打回数					1打回数	2打回数
A ゾーン	優勝	小崎 敏美	港	1	35	C ゾーン	優勝	井上 信也	西	2	37
	準優勝	永田 祐千	昭和	1	37		準優勝	後藤 正旭	東	1	37
	3 位	村上 吉秀	天白	1	38		3 位	大池 実	熱田	1	38
	4 位	野村しずよ	南	0	38		4 位	南波 伸明	中川	1	39
	5 位	伊藤照之輔	天白	1	39		5 位	久米 昌孝	千種	1	39
B ゾーン	優勝	広田 穂積	中川	1	32	D ゾーン	優勝	西脇恵美子	北	1	36
	準優勝	佐治 弘	千種	1	35		準優勝	菱田 尚宏	中	1	39
	3 位	本田 英典	東	2	38		3 位	二村 眞弘	中川	1	40
	4 位	吉田 禎男	瑞穂	1	40		4 位	辻 慶明	昭和	1	40
	5 位	宮下 捷	北	1	40		5 位	木下 幸紀	千種	1	40



「こころの絆創膏」キャンペーン

25 年度社会奉仕活動委員長 稲田 萬吉

「こころの絆創膏」キャンペーンにつきましては名古屋市の交通事故者数は年間 50 人です。自殺者数は約 500 人です。事故死の 10 倍です。こうした事態に本市では自殺予防週間（9 月）と自殺対策強化月間（3 月）に「こころの絆創膏」キャンペーンを実施しています。私たちは鯉城会としてお手伝いをしています。

お疲れ様です。名古屋市からです。こころの絆創膏をお配りしています。相談窓口が記載されているサビオをお配りしています。

「こころの絆創膏」にはうつ病に関する話が記載されています。それはうつ病が自殺に

深い関わりがあるとされており住宅などに困りの方や、多重債務で悩んでいる方への相談窓口も記してあります。

もし悩み事があるなら一人で悩まずに相談して頂くためご本人や周りの方に周知出来るようご協力をよろしくお願い致します。一人 100 個ずつ配布しています。



東日本大震災の共同募金

25 年度社会奉仕活動委員長 稲田 萬吉

東日本大震災の共同募金に鯉城会として 33 名参加しました。

社会福祉協議会の指示により 2 班に分かれて栄の目的地に行きました。3 月 8 日は真冬の寒さです。松坂屋の西側の日陰の場所でした。17 名で募金箱 1 個しかありませんでした。とにかくビル風が吹き冷たさが一層増しました。歩行者の方も肩をすぼめて足早に歩いていました。

みんなで声をかけて東北大震災の共同募金

です。とお願いを致しました。しかしあまりの冷たさの為か、なかなか募金をして頂けませんでした。2 時間くらい募金活動を続けましたが本当に集まりませんでした。

終了にあたり各区の社会奉仕に参加されていた人々が募金箱に多くの募金をされました。さすが鯉城会の参加者は違うなと思いました。とにかく寒くて辛かったの思いです。

名古屋の人々は東北大震災は身近に感じなくなりました。

第4回 OB 文化祭

第4回 OB 文化祭を終えて

25年度行事委員長 山崎 廣 徳

今日は雨だった会場に足を運んでいただける方々の足手纏いにならねばと考えたが、天気の中で気を揉んでも詮無い事である。

先ずプログラム通りの時間開催ができるかスタッフ一同朝からの準備で大忙しであった今回は一つ特別に会場設営が前日にマイク配線準備が出来た事による当日の音響系のマイク音合せ準備に少し余裕が出来た事により全体準備時のあせりが無かった。

今年度の新機軸としては出演クラブより1名舞台設営者の応援をいただいて、自分達で舞台運営が出来る事を学んでいた。

出演クラブ各自持時間での時間オーバーもほとんど無視出来る時間で幕間での時間調整が出来て、ほぼプログラム表示通り進行した。しかし若干客席への照明と演技中での舞台照明のあかるさ不足が指摘された事と舞台準備中でのマイクからの音もれ等が参見されたが

大まかに言って今年度のOB文化祭はスムーズに流れて運営出来たと考えています。

出演クラブ参加による反省会においても大きなトラブルもなく無事完了出来た事はうれしかったとの意見もあったし、2~3の新しい試みを行った事で観客の皆様、昨年度には無かった事ができ披露出来た事でも喜ばれた。少しづつの変化として受け取っていただけただけなのではと思っています。又OB文化祭は、観客流動性が見受けられますが今年度は受付でも602名の方々がカウントされました。又会場最後部席45席×3ブロックに出演クラブごとにまとまり文化祭終了まで観劇応援をする事の提案を頂いた。出演クラブの皆様、代議員、幹事の皆様誠にお力添えありがとうございました。お出ましの皆様今年度の観劇はいかがでしたでしょうか、ご観覧ありがとうございました。

第29回公開講演会

お口を大切にすると見えてくる良い事!

25年度行事委員長 山崎 廣 徳

今回は聴講参加者が少々少なく少し寂しい会場雰囲気でしたので、参加者皆様に舞台の前面に集まっての聴講会になりました。

これは各区会長様始め役員の方々の、事前PRのご尽力に関わらず286名の参加でした。私共の目論見はいくら無名の講師と言え、各区会長様には第1弾、第2弾のホール参加増員策のお願いと全会員様には鯉城ニュース及びチラシ4700枚強、それと朝日、中日の各プレスにも講演会開催掲示のお願いをして市民の皆様へのPRも行いました。又在学生には会長から1~2年生にはそれぞれの教養講座開始前には参加PRを実施又開催10日前より一階入口正面にはA4の16倍の大型ポスターを掲示したしライフプラザに来所される一般市民

の皆様や入所各機関の講習会等への来場者の方々にもPRをいたしました。総合的に判断して全体的で400名から欲で500名ほど見込みましたが残念あてが外れました。講師先生にはスタッフを含めて340名程の聴講者と報告いたしました。アンケート集計には今回の各区の実行実績が数値として集客状況協力度が如実に表れております。又講師に対して集客数の少ないのは大変失礼だとの言も参見されている。行事委員会としての力不足が感じられた。又OBの皆様におかれましてはホール行事参加お出ましは、卒業後のお互い元気な顔見せ会になり近況状況など“やっとかめ、やっとかめ”と更に親交を暖めて下さる事にご利用活用して下さる事に期待します。

ミャンマー マヤンイン小学校訪問

国際学科 25 期 岡 本 明 子



私達は、平成 24 年、国際学科を卒業、同時に学園創設目標に沿った活動を続けようと OB 会を設立、25 期生であることから 2525 会とし、同年 4 月より活動を始めて現在に至っております。

今回の活動は“One Coin project”と称し、2525 会の諸活動に参加した人達の善意による寄付を積み立てて活動資金に充てたものです。

幸い国際学科には、国際社会で活躍された方々が多く、対象国、実施内容等を調査検討した結果、ミャンマー、バゴ管区のマヤンイン小学校に井戸、揚水ポンプ、ディーゼルエンジン、貯水タンク等を建設寄贈することに決定、2013 年 6 月から工事を始め、11 月中旬に完成しました。

設備建設に当たっては、名古屋大学博士課程を修了されたミャンマー人、Thandar 女史に管理をお願いし、ミャンマー訪問に際しても現地でのアテンドをお願いしました。

今回の訪問は、その井戸、ポンプ設備の引渡しとセレモニーに参加する為、2525 会を代表し 7 名が現地を訪問したものです。

ミャンマーは、つい先日まで軍事独裁政治で、スーチー女史が軟禁され、日本人ジャーナリストが射殺されたこともある、私達にとっては未知の国、さらに目的地マヤン村は、かつての首都ヤンゴンから 80km 以上離れた電気も無い田舎で、果して無事現地に着けるのか随分心配しました。しかしヤンゴン国際空港に降



り立つと、到着ロビーまでの送迎バスに名古屋市バスの中古が使われており、その色も丸八マークもそのまま、何かほっとしました。

ミャンマーに入国し、初めて目にするのは黄金色に輝くパゴタ、赤茶色の僧衣を纏った修業僧の托鉢風景、そして朝の通勤ラッシュでした。マヤンイン村へは、国道を逸れて荷車か馬車しか通れないよ



うな狭い地道を一時間以上、時には車を降りて歩かなければならないような場所もありました。

やっと辿り着いたマヤンイン小学校では、校長先生を始め、僧侶、村長、村民の皆様の出迎えを受け、教室に案内されました。

校長室兼教室で 2525 会々長から校長先生にポンプ設備の贈呈目録を手渡し、校長先生からは学校管理者、PTA 会長、校長先生署名の感謝状をいただきました。又、私達が持参した文房具、日本の行事を紹介した英文の絵本「I live in Tokyo」を子供達にプレゼントしました。先生の説明に子供達から「チェズン イン テンバレ（ありがとう!）」と喜びの言葉が返ってきました。

校舎近くには、井戸から汲み上げられた水が、水槽に満々と満たされ、ポンプ小屋外壁には「Kojyogakuen International Dep't 25th Graduating」と大きく書かれ、私達一同感激しました。

その後校内の僧院に移動、僧侶と村長から謝辞があり、そして村民総出で準備してくださった昼食をいただきました。貧しい生活のなかでの歓待に感謝し、この子供達の未来に幸多かれと願いを込め、一人ひとり握手をして心の温もりを胸にお別れしました。

帰路大変な交通渋滞に巻き込まれ、予定していた日本大使館訪問は出来ませんでした。大使館セキュリティーの好意により、丸山代理大使に電話で本日の報告をすることが出来ました。

尚、この井戸水サンプルを持ち帰り、水質検査をしたところ日本の飲料水基準を十分満たしていることを確認し、安心して飲んでいただくよう現地に連絡しました。

平成 26 年度各区会展示会予定について

区会が主催又は参加している平成 26 年度の展示会は下記のとおりです。詳細については各区会が発行する会誌、チラシ、ホームページなどをご確認下さい。

区	区会名	作品展日程	会場	展示会名
千種区	花水木鯨城会	平成26年11月5日(水)～9日(日)	愛知県芸術文化センター B2F アートスペース X	第 11 回 趣味の作品展
東区	東鯨城会	平成26年10月30日(木)～11月2日(日)	名古屋市市政資料館	ふれあい作品展
北区	北鯨城会	平成26年11月8日(土)～9日(日) 平成27年2月下旬	北生涯学習センター 黒川ギャラリー	北生涯学習まつり協賛作品展 北鯨城会趣味の作品展
西区	西こじょう会	平成26年10月2日(木)～5日(日)	西生涯学習センター	第 11 回 総合作品展
中村区	中村鯨城会	平成26年11月下旬	地下鉄東山線 本陣駅構内 本陣ギャラリー	中村鯨城会作品展
中区	中鯨城会	平成26年10月1日(水)～4日(土)	名古屋市市政資料館	趣味の作品展
昭和区	昭和鯨城会	平成26年10月21日(火)～23日(木)	昭和区役所 6 階	趣味の作品展
瑞穂区	瑞穂鯨城会	平成26年10月15日(水)～19日(日)	名古屋市博物館	趣味の作品展
熱田区	熱田鯨城会	平成26年10月25日(土)～26日(日)	熱田生涯学習センター	第 10 回熱田生涯学習まつり 「趣味の作品展」
中川区	中川鯨城会	平成26年7月5日(土)～6日(日)	中川区役所 講堂	中川鯨城会作品展
港区	港鯨城会	平成26年12月5日(金)～7日(日)	名古屋港ポートビル 2 階 展示回廊	港鯨城会作品展
南区	南鯨城会 (こなみ会)	平成26年10月21日(火)～22日(水)	南区役所 講堂	第 14 回 趣味の作品展
守山区	守山鯨城会	平成26年10月15日(水)～19日(日)	名古屋市民ギャラリー矢田	第 11 回 趣味の作品展
緑区	緑鯨城会	平成26年10月25日(土)～26日(日)	緑区役所 2 階講堂	第 19 回 趣味の作品展
名東区	名東鯨友会	平成26年5月23日(金)～25日(日)	名東区役所 講堂	平成 26 年度 名東区文化協会 名東区制 40 周年記念協賛 「総合美術展」
天白区	天白こじょう会	平成26年10月4日(土)～5日(日)	天白生涯学習センター	趣味の作品展

表紙説明

<名古屋市総合体育館（日本ガイシスポーツプラザ）>

南区にある屋内総合体育施設。大規模アリーナ、プール：スケートリンク、会議場の3つの施設で構成されている。

ネーミングについては、名古屋市に本社を持つ日本ガイシが「地域貢献と社名の普及」を目的に命名権を獲得した。全施設の総称が「日本ガイシスポーツプラザ」となっている。用途はスポーツイベント、コンサート全般、発表会、集会、試験会場等多岐にわたって利用されている。

旧名としてはレインボーホールとして今でも親しまれている。

表紙の写真はスポーツアリーナでプール／スケートリンクである。

撮影・文 松岡 崇（26期・文化A）

訃報

平成26年3月31日現在

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。（敬称略）

坪井 清	（9・文化A）	25・10・11	前田 隆	（18・環境）	26・02・01
小森 英士	（24・国際）	25・10・31	狩野 和夫	（17・健康）	26・02・04
田中 健	（13・地域）	25・10・29	荒木 征一	（20・美術）	26・02・11
河村 松茂	（23・地域）	25・11・05	小和瀬早苗	（23・福祉）	26・03・03
野尻 徹	（20・地域）	25・11・06	浅井 了子	（23・健康）	26・03・08
木村 雅子	（23・生活A）	25・12・03	光村 俊夫	（10・陶芸）	26・03・12
鈴木 基夫	（20・陶芸）	25・12・15	立松 貞夫	（10・園芸）	26・03・26
早川 一尾	（19・生活B）	25・12・31	* 鈴木 明	（19・福祉）	25・06・14
大橋 幹教	（8・園芸）	26・01・05	* 水野 勇	（13・園芸）	25・07・13
小澤 弘子	（24・文化B）	26・01・09	註 * 印の2件は、25年10月以降に連絡があったものです。		
吉沢 格一	（25・美術）	26・01・17			

【お詫びと訂正】

鯉城ニュース25号12頁、25頁に誤りがありました。

12頁 名前間違い 誤 正

藤田 芳孝さん → 服部 義明さん

投稿者の名前が間違っておりました。

25頁 漢字間違い 誤 正

菅谷 迪也 → 菅谷 迪也さん

菅の字が冠 竹と艹が間違っておりました。

訂正して、お詫び申し上げます。

編集後記

鯉城学園も変わりました。学園の存続危機も一応脱出し、新しい方向にむけての第一歩がスタートしました。鯉城会もこの新しい流れに対応し、さまざまな活動に工夫し、魅力ある会をめざします。皆様のご協力により本号を発刊できましたことを、厚くお礼申し上げます。

広報委員 猪飼 甫 中村さよ子 中西三千人 稲生 雅子 橘田 正紀 尾畑 孝
ホームページ担当 池田 正子

第30回 公開講演会

蘇る名古屋城本丸御殿の至宝



講師：

古典模写 加藤 純子氏

講演内容

- ① 「古典模写」についての「私の思い」とその挑戦
- ② これまでの「古典模写制作」の“歩み”
- ③ 名古屋城本丸御殿の障壁画復元模写の“歩み”と苦難
- ④ 名古屋城本丸御殿障壁画の楽しみ方



障壁画復元模写（名古屋城本丸御殿玄関一之間襖絵 竹林豹虎図）

プロフィール

- 東京芸大で、日本画を学ぶ。
- 大学院に進み、助手だった20代後半に国宝「源頼朝像」を模写（現状模写）する。
- 1985年瑞巖寺（宮城県松島町）の本堂障壁画を模写するにあたり、初めての復元模写に挑む。
- 2003年～2005年徳川美術館所蔵の国宝「源氏物語絵巻」を復元模写する。
- 現在、名古屋城本丸御殿障壁画復元模写の指導者として、活躍中。

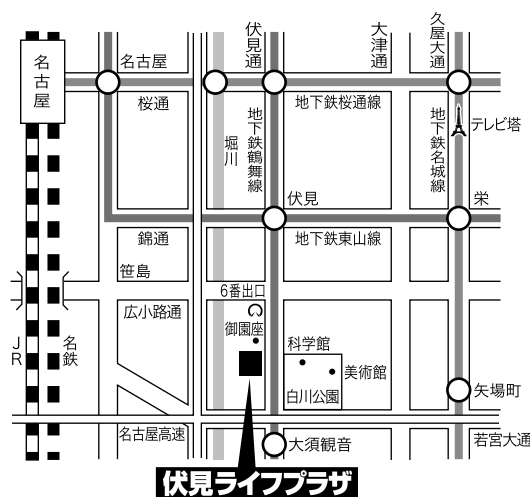
日時 平成 26年 7月 3日 (木)

開場 12:30

開演 13:30 ~ 15:00

場所 伏見ライフプラザ 5階 鯨城ホール
(中消防署、階上)

入場料無料。多数お誘い御来場下さい。
要約筆記・手話通訳も準備



主催 ❖ 名古屋市高年大学 鯨城会

お問い合わせ先 ❖ ☎ 052-222-7521